

I

発達理解研究グループ

「学校行事等における子供のつまずきと支援の方法」

<研究員>

吹田第二小学校	教諭	深山 純子
吹田第二小学校	教諭	豊田 祐子
北山田小学校	教諭	福富 拓
古江台小学校	教諭	藤内 直子
佐井寺中学校	教諭	小口 奈緒美
千里みらい夢学園 竹見台中学校	教諭	山口 ひろみ

<スーパーバイザー>

神戸親和女子大学	非常勤講師	森田 安徳
----------	-------	-------

1. はじめに

平成24年に文部科学省が発表した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」によると、通常学級において知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は約6.5%とされています。この結果からもわかるように、支援学級のみならず、通常の学級においても子供のニーズに合わせて、特別な教育的支援を実施することは重要であると考えられ、本市においても特別な教育的支援が適切に実施できるように計画する必要があります。

主に、発達に課題がある子供や発達に課題があると思われる子供の多くは、学校生活における様々な場面で困り感を持ち、つまずきながら過ごしており、教職員などの周囲の大人は、教育活動の中で、このような子供たちの「つまずき」に気付き、それに対して熱心に適切な支援を実施しようと日々検討を重ねています。しかし、実際に実施している支援の中には、効果的な支援につながっていないものも多くある現状もあり、具体的な支援方法について示す必要があると考えます。

このような中、本市教育センターでは、平成14年度より「発達理解研究グループ」を立ち上げ、発達に課題がある子供や発達に課題があると思われる子供の特性理解、その対応に役立つ様々な教材の開発や授業中の支援項目の作成などに努めてきました。

平成30年度より、本研究グループでは、学校生活の中でも、特に大きな集団の中で行動する学校行事等に着眼し、「学校行事等における子供のつまずきと支援の方法」という研究主題で2年間研究を進めてきました。

本研究紀要では、研究グループの2年間の取組をまとめ、研究の成果物として学校行事ごとにつまずきとその対応をまとめた表を紹介します。

2. 研究主題及び目的

(1) 研究主題

学校行事等における子供のつまずきと支援の方法

(2) 研究の目的

日々の学習活動とは異なり、学校行事は特性上、子供がつまずきやすいものとなっているため、今回の研究を通して、各学校行事におけるつまずきに対する支援方法を整理した表を作成することによって、経験年数の少ない教職員や支援方法について悩みを抱える教職員の助けとなり、その結果、すべての子供が安心して過ごすことができる学校行事を実施できるようになることを目的としています。

3. 令和元年度 活動経過

★：SVに来ていただいた日

回	月日	曜日	時間	森田 SV	内容
第1回	5月24日	金	16:30		研究メンバーの委嘱
					研究事項の進捗確認
第2回	6月24日	月	16:00	★	表の様式の統一
					研究スケジュールの確認
第3回	7月8日	月	16:00		小中学校間の打ち合わせ
第4回	9月2日	月	16:00	★	昨年度作成内容の検討
					今年度作成内容の検討
第5回	10月21日	月	16:00		昨年度作成内容の検討
					今年度作成内容の検討
第6回	11月12日	火	16:00	★	昨年度作成内容の検討
					今年度作成内容の検討
第7回	12月9日	月	16:00		研究報告会に向けた役割分担
第8回	1月9日	木	16:00		研究報告会発表リハーサル
第9回	1月16日	木	16:00	★	研究報告会発表リハーサル
第10回	1月28日	火	16:30		研究報告会発表リハーサル
第11回	1月29日	水	14:00		研究報告会

4. 研究内容及び発信

(1) 研究の対象

研究の対象となる学校行事等は、主にどの小・中学校においても実施されているものとしております。2年間の研究で対象とした学校行事等は18項目であり、以下の表1の通りです。

表 1 研究対象の学校行事

	小学校	中学校
平成30年度	(平成30年度研究分) 運動会 式典(入学式・卒業式) 宿泊行事(林間・臨海・修学旅行) 校外学習 委員会活動・当番活動	(平成30年度研究分) 定期テスト 校外学習 宿泊学習 修学旅行
令和元年度	音楽会 健康診断 プール 避難訓練	部活動 文化祭 体育大会 合唱コンクール 職業体験

(2) 研究の進め方

各学校行事において、以下の3点について整理し行事ごとに表でまとめました。

ア 子供のつまづく場面

どのような場面で子供がつまづくのかを整理しました。学校行事は、取り組む期間も長いため、事前準備と当日等に場面を細分化し、より具体的につまづきを把握できるようにしました。

イ 考えられる背景

アで挙げられた子供のつまづきに対して、つまづく要因や背景を考えました。本来であれば子供によって「つまづき」に至るまでの背景は異なりますが、本研究においては、表2のように項目ごとに分けて整理しています。

ウ 支援方法

子供のつまづきに対し、どのような支援が適切なのかを整理しました。また、支援方法については具体的にするとともに複数の選択肢を設け、様々な子供の状況に対応できるようにしています。なお、支援に使う道具などについては写真などを別添資料として掲載しています。

表2 研究で用いた背景の一覧

考えられる背景	背景の詳細
不器用	器質的でなく機能的に、日常における運動等に困難がみられる。 姿勢や体全体を使ってする運動や、指先を細かく動かすものにおいて、ぎこちなさがあったり、不正確であったりする。
不注意	集中の持続が短い。 注意が散りやすい。 場面を切り替えにくい。 2つ以上のことを同時にできない。
こだわり	特定の物事などに固執したり、独自のルールを作ったりすること。急な予定変更等に対応することが苦手。 一番にこだわったりする。
感覚の課題	特定の音や光、肌触り、歯ごたえなどの感覚に対して、極端に敏感、もしくは鈍感という特徴がある。
衝動性	思いついた行動を、考える前に実行してしまう。 自分の行動や感情をコントロールすることが苦手で、他人の行動をさえぎったり、質問が終わる前に答えてしまったりする。
見通しがもちにくい 不安	行動や事象の先に何があるのかを思い浮かべることが苦手。 終わりの時間や行動を切り替えるタイミングがつかみにくい。 また、普段（日常）と違うことや、予期しない出来事等に対して強い不安や恐怖を感じることもある。 さらに、失敗の経験からくる不安を感じることもある。
その他	自己理解 経験不足 記憶 社会性 家庭背景 体力

(3) 平成30年度の研究活動

平成30年度については、平成30年度（2018年度）紀要113号にも掲載しているため、紀要113号を一部抜粋、編集して掲載いたします。

平成30年度は、表1にも載せている学校行事について研究しました。その中で、研究報告会にて報告した内容は以下のものになり、以下に掲載している学校行事について、つまずきとその背景、そしてそれに対する支援方法をまとめた表を作成しました。

ア 式典・宿泊学習・校外学習（小学校）

小学校における校外学習の中でも、「歩いている時」に焦点を絞り、研究員が実際に体験した事例をもとに研究しました。以下は研究で用いた事例の1つです。

（ア）「距離感が保てない」が原因となる事例

【事例】 小学校1年生の遠足

小学校1年生は、列に並んで歩くことも難しい場合があります。このような場合、距離感が保てない子供は、前の子供にぶつかってしまったり、後ろからぶつかられたことを、いやがらせをしてきたと誤って思ってしまう場合があります。特に、背の高い子供は前の子供の速さに左右され、適度な距離感が崩れると並んで歩くことが難しくなってしまいます。

このような「つまずき」に対して、トラブルが起こる前に、先頭に並んでもらい、先生と速さを調節するとうまくいく場合があります。さらに、罰として先頭に立たせるのではなく、「〇〇さん、大きな声で頑張れるから号令係をやってくれる？」と伝え、先生の近くで「バディはじめるよ！」と声をかけるようお願いしました。それによって、うまくトラブルを回避できるだけではなく「自己有用感」を感じることができたようでした。

イ 委員会・当番活動（小学校）

平成30年度は、小学校の高学年で、月に1回程度ある授業時間内の委員会活動と日々の当番活動の大きく2つの活動に分けて、研究しました。

（ア）委員会活動

委員会で考えられるつまずきに対する支援方法に共通していることは、友達や教員に聞いて、確認をする力だと考えています。自分の教室でない場所に集合し、普段関わりの少ない教員と活動をすることは、見通しが持ちにくく、大きなストレスや緊張を感じてしまいます。そんな環境の中で、自分と向き合い、人に頼ったり繋がったりする為にも、事前に担任や、委員会担当者が、児童のつまずきや背景を、理解しておくことが必要だと考えます。

（イ）委員会・給食・掃除等、日々の当番活動について

小学校の委員会活動は、決まった曜日担当の休み時間に、仕事をする人が多いと思います。教室には、委員会の当番表の掲示がないことで、確認をする機会も少なく、仕事を忘れてしまいがちなため、視覚的に目につきやすく忘れないうための支援方法を紹介しました。（写真等は紀要113号を参照）

ウ 運動会（小学校）

子供のつまずきを整理し、そのつまずきの支援を大きく3つにまとめました。

（ア）見通しを持たせる

運動会は「練習期間が長い」などのことから、子供たちが見通しを持つことが難しく、練習に参加しにくくなることが予想されます。見通しを持たせること具体例としては、「表を提示する」などがあります。

(イ) 覚えやすいように情報を提示する

運動会は「初めて経験する動き・移動が多い」などのことから、覚えることにつまずく子供がいることが予想されます。覚えやすいように情報を提示することの具体例としては、「図や絵や写真で提示しておく」などがあります。

(ウ) 指示の出し方を工夫する

運動会は「集団も大きくなり人数が増える」などのことから、集中して話が聞きにくく、話を聞きもらす子供がいることが予想されます。指示の出し方を工夫することの具体例としては、「スモールステップで練習内容を設定し、直前に具体的に短く説明する」などがあります。

エ 定期テスト、校外学習・宿泊学習・修学旅行、委員会活動（中学校）

平成30年度は、複数の研究項目の中から、中学校で特徴的な定期テスト、その中でも「提出物を出せない」というつまずきについて紹介します。

(ア) 中学1年生を対象としたアンケート

平成30年10月に吹田市内A中学校の1年生を対象に「中学校生活の中で小学校と同じ感覚でいると大変なこと」を問うアンケートを実施した結果、優先順位の3位までにテストと答えた生徒が87%もいたことから、定期テストについて「テストまで」、「テスト当日」、「テストの結果を受けて」の3つの場面に分類して研究しました。

(イ) 提出物を出さない生徒

問題集が提出できないつまずきとして「範囲が多くてやれない」「宿題だとわかっていない」などのつまずきが考えられます。それに対する支援の方法として、「個別に声かけをする」「付箋を貼らせる」などが考えられました。

(4) 令和元年度の研究活動

令和元年度の研究活動は、「前年度作成した表の精査」と「令和元年度分の学校行事の表の作成」の大きく2つに分けて進めました。

「前年度作成した表の精査」については、昨年度の研究ではそれぞれの学校行事の中で内容を検討し、表を作成するまでしかできていなかったため、今年度は小・中学校間でつまずきやその背景、支援方法などを共有し、内容の整理を行いました。また、完成した表を、スーパーバイザーの森田先生に見ていただき、内容項目についてより適切な支援になるよう指導・助言をいただき修正しました。また、実際に研究員が実践した際の様子や、その際に指導した具体物を写真で表に追加するなど、実際に使用する教職員が使いやすくなるような表を作成しました。

次に、「令和元年度分の学校行事の表の作成」については、昨年度の反省を踏まえ小・中学校の共有を行い、随時調整を実施することができました。また、同じくスーパーバイザーである森田先生に指導・助言をいただき、表を完成させることができました。

完成した表は、「知恵の泉」にアップロードし、広く吹田市内の教職員の皆様に利用していただければと思っております。なお、表の見本として、次ページに小学校の「委員会・当番活動」を掲載しております。(表3)

本研究グループでは、令和2年1月29日（水）に開催された令和元年度吹田市立教育センター教育研究報告会にて、これまでの研究成果を報告いたしました。研究報告会では、研究した学校行事のすべてを伝えることはできませんでしたが、報告会で使用したスライドなどを用いて報告内容について紹介いたします。なお、研究の経緯や研究方法については前述しているため省略します。

(ア) 保健行事（内科検診）【小学校】

小学校では、毎学期二測定が実施され、それ以外にも図1にあるような検診が多くあります。そのため、内科検診などの保健行事におけるつまずきは毎回の困りごととして発生していると考えられます。

その要因としては、図2にもあるように、見通しが持てない不安があります。例えば、子供は、保健室を「ケガをしたときに行く場所」として認識しているため、内科検診の際に、「ケガもしていないのになぜ保健室に行かなければならないのか」と不安になることがあります。また、背の順ではなく出席番号順で並ぶことや、初対面の医師や白衣などに対して不安になるなど、様々な要因が考えられます。

今回は、様々なつまずきの中から、保健室内でのつまずきについて説明します。保健室内でのつまずきで考えられることとしては図3にもあるように、「座って待機ができない」「話をしてしまう」「検診の受け方がわからない」があります。

これらのつまずきに対する支援として、見通しの支援があります。見通しの支援には、今回の報告では「保健室での掲示物」そして「保健行事スタンダード」を伝えました。

「保健室内の見通し」については、右の図4のように、保健室で並ぶ場所が掲示されていることや、保健行事の受け方が掲示されていたりします。これによって、安心感を得ることができるようになります。

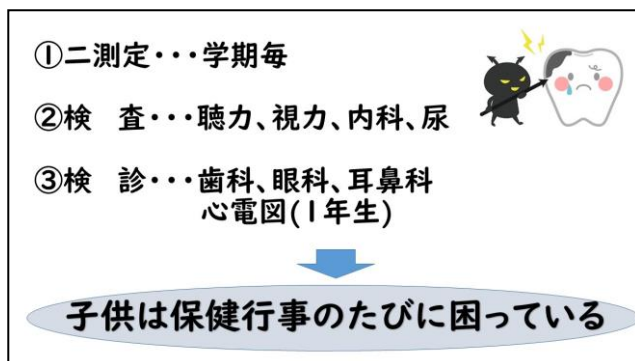


図1 保健行事の現状



図2 保健行事におけるつまずきの要因

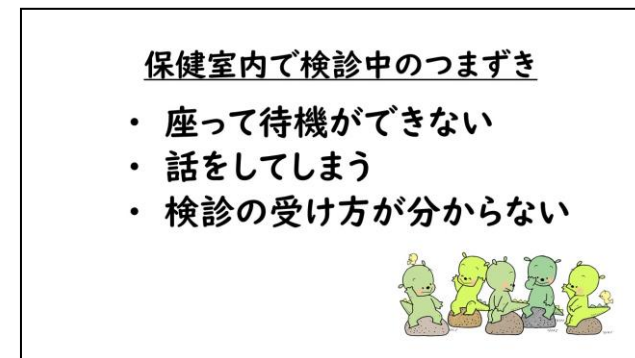


図3 保健室内に起こるつまずき

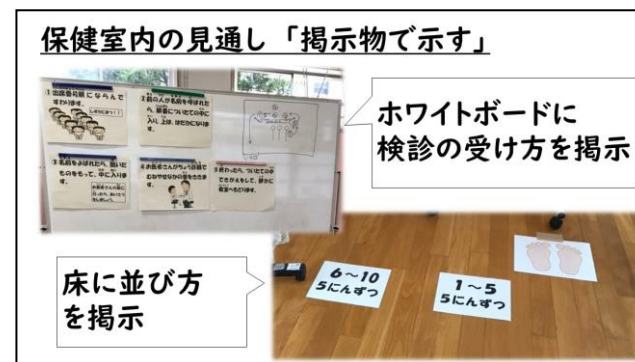
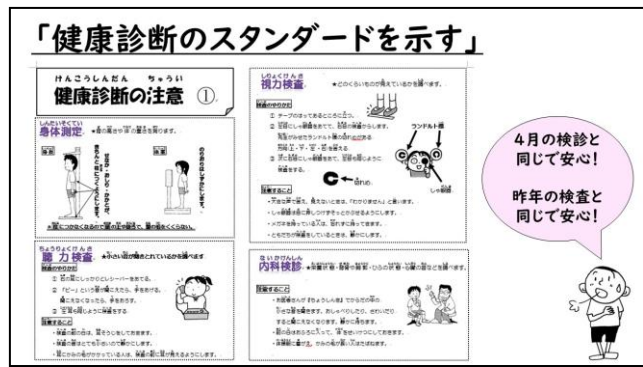


図4 保健室内の見通し

また、「保健行事スタンダード」は図5のように、学校としての各行事のスタンダードを作成したものになります。それにより、常に同じ内容で検診などを受けることができるため、見通しをもって安心感を持つことができます。また、教職員が共通理解を図ることができるため、環境整備などもスムーズに行うことができますようになります。

これらのように、学校ごとにルールなどの共通認識を行うことによって児童が見通しをもって保健行事に取り組むことができるようになります。



(イ) 避難訓練【小学校】

避難訓練の支援としてまず大切になるのが、「何のために訓練をするのか」という避難訓練の意味を伝え、理解させることです。それは、子供の特性によって変わり、子供によっては「避難」や「訓練」という言葉の意味から伝え理解させる必要があるかもしれません。

また、避難訓練についての説明に利用する文言として、図6のように簡単に説明したものが適切な場合や、図7のように詳細に説明したものが適切な場合があります。

次に、避難訓練の支援としては、具体的な行動を伝え、見通しを持たせることが大切です。そのための提示方法としては図8のように文章で提示することが有効な場合や、図9のようにイラストを用いて提示することが良い場合もあります。

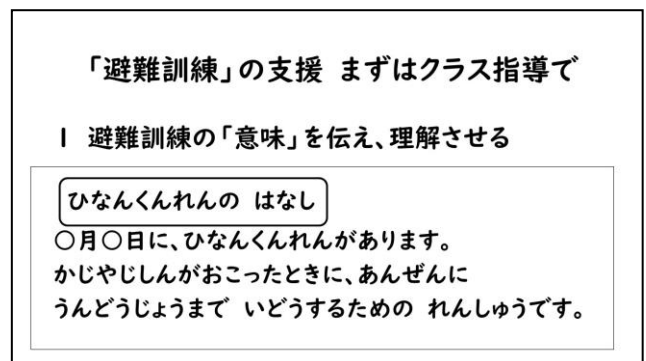


図6 避難訓練の意味①

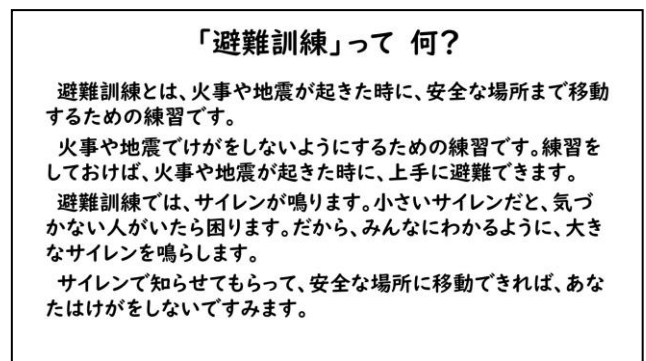


図7 避難訓練の意味②

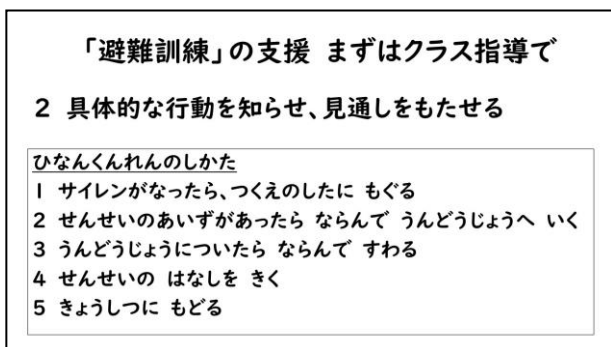


図8 避難訓練の見通し①

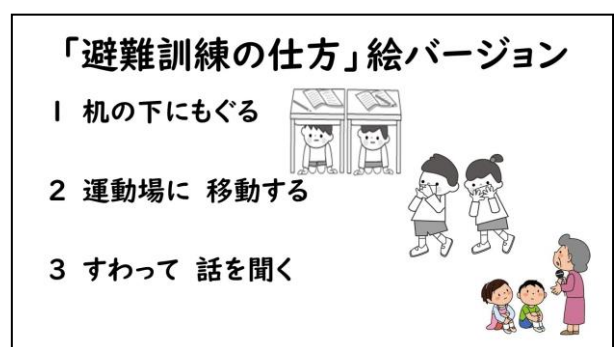


図9 避難訓練の見通し②

図8、9のような文章やイラストを提示しても、想像することや先を見通すことが苦手なタイプの子供にとって、いつもとは異なる行動をとることは、とても難しく感じてしまいます。そのためには、緊急時に子供自身が安心して行動できるよう、行動の手がかりを用意しておくことが大切になります。具体的には、図8、9のような視覚的な掲示物だけでなく、事前にリハーサルを実施し経験を積ませること、そして図10にもあるように、「移動するときの約束」など合言葉を決めておき、日ごろから確認し意識させておくなどがあります。

しかし、これらの支援を行ったうえで、さらに個別の支援が必要な子供がいます。例えば、聴覚過敏によってサイレンの音などに驚いてしまい、周りと同じようには行動できないなどがあります。このような子供については、できる限り就学前や前年度からの引継ぎを大切にすることによって、事前の対策をとることができます。

(ウ) 卒業式【小学校】

小学校における卒業式は、平成30年度の研究内容にはなりますが、報告会が卒業式の実施前であることから、令和元年度の教育研究報告会にて発表を行いました。なお、内容については、令和元年度に検討を重ね、よりよいものにしたものを発表しています。

卒業式におけるつまずきは、「卒業式まで」と「卒業式当日」とで分けることができます。今回の報告では、当日に向けて大切になる練習に焦点を当てて紹介します。

卒業式の練習におけるつまずきの例としては右図12のように、「じっとしていられない(立ち歩く・話してしまう)」「座る姿勢が保てない(長時間座ることができない)」などが考えられます。ともに、椅子に座り続ける中で起こるつまずきであり、教育研究報告会では、これらのつまずきを起こしそうな子供が自校にいるのかを聞いたところ、多くの学校でこのようなつまずきを抱える子供がいることがわかりました。

このように、卒業式などの式典では、長時間椅子に座らなければならないことから多くの場面でこれらのようなつまずきを感じてしまいます。本研究グループでは、これら

避難の手がかりとなるもの

<p>1 視覚的な提示物</p> <p>2 リハーサル(経験)</p> <p>3 合言葉</p>	<p>いどうするときの やくそく</p> <p>① おさない</p> <p>② はしらない</p> <p>③ しゃべらない</p> <p>④ もどらない</p>
	<p>ひなんのときの あいことば</p> <p>サイレンだ まずは とまって</p> <p>はなし(ほうそう)を きこう!</p>

図10 避難訓練の見通し③

学年やクラスで個別の支援が必要な子どもは?

- 1 就学前や前年度からの引継ぎで 確認する
- 2 避難訓練前に、前年度の様子を 前担任に聞いて確認する

↓

事前に行えることを考えて支援する

ぜひ、今回作成した避難訓練の表を活用してください。

図11 さらに支援が必要な子供

卒業式の練習におけるつまずきの例



<p>①じっとしていられない。 (立ち歩く・話してしまう)</p>	
<p>②座る姿勢が保てない。 (長時間座ることができない)</p>	

図12 卒業式の練習におけるつまずきの例

のつまずきにある背景として次のように考えました。

卒業式の練習におけるつまずきの背景としては、図13にもあるように、「落ち着きのなさや立ち歩き、否定的な言葉が出てしまうこと」の要因として「不注意」や「衝動性」「見通し・不安」があり、「姿勢保持の苦手さ」の要因としては、「不器用（体幹の弱さ）」があります。

それぞれのつまずきに対する支援方法については、まず、「落ち着きのなさや立ち歩き、否定的な言葉が出てしまうこと」への支援方法は、図14にあるように、事前に見通しを説明することや、子供のできる範囲を確認するなどがあります。また、体を動かしてしまう子供の背景として、自己刺激を求めていることが多く、そのような子供については時間を過ごす中で自己刺激を得るための道具を準備することも有効な支援方法になります。効果的な道具の例としては、図15にあるように、ポケットの中に入れておけるような目立たない小さなものがよく、硬いものや柔らかいもの、ツボを刺激するものなどがあり、それぞれの子供に合わせて選ぶことが大切になります。

「つまずき」を大きく2種類に分類して考えました。

- ①落ち着かずに、立ち歩く。
- ②否定的な言葉がでる。

背景として…
「不注意」、「衝動性」、「見通し・不安」があると考えました。

- ③姿勢保持が苦手である。

背景として…
「不器用（体幹の弱さ）」があると考えました。

図13 卒業式のとつまずきの背景

- ①落ち着かずに、立ち歩く。
- ②否定的な言葉がでる。

対応方法として

- ①事前に、見通しを説明する。
- ②事前に、どの程度の時間を一緒に行動出来るかを確認する。
- ③途中で外にて休憩時間を設定する。
- ④スモールステップで取り組ませて、一緒に活動できる時間を延ばす。
- ⑤時間を過ごすための道具を準備する。

図14 とつまずきの対応方法①



図15 使える道具の例

次に、図16のように「姿勢保持の苦手さ」に対する支援方法として、凹凸などのある刺激を与えやすいクッションを準備することや、図17のように椅子にウレタンをつけて椅子の後ろを高くして姿勢を保持しやすいような工夫を行う、そして、早い段階から体幹トレーニングを実施し、座り姿勢を学習させるなどがあります。体幹トレーニングの方法としては、平成29年度(2017年度)紀要112号の発達理解研究グループにて、「学習に向かう姿勢(身体)づくり」についてまとめたものがありますので、そちらを参照していただければと思います。

③姿勢保持が苦手である。

対応方法として

- ①凹凸などのあるクッションなどを準備する。
- ②事前に、座席などに工夫をして、座りやすくする。
(次の写真)
- ③早い段階から、体幹トレーニングで座り姿勢の学習をする。

図16 姿勢保持の支援方法



図17 椅子に施した工夫

(エ) 職業体験【中学校】

「職業体験」とは、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動です。吹田市の中学校では、主に2年生で実施しております。子供たちが、将来、社会的にも職業的にも自立し、社会の中で自分の役割を見つけそれを果たしていくための力をつけるためにも、この職業体験は効果的に活用されています。その反面、職業体験は、初対面の大人とのやりとりや学校外の普段とは異なる環境での活動、面接などがあり、それによって、子供たちがつまずきやすいという性質も抱えています。

今回の研究では、この職業体験におけるつまずきを「体験先を決めるまで」「当日まで」「当日」の3つに分け、それをさらに細分化していきました。教育研究報告会では、その中の「当日まで」、さらにそこから図18のように細分化した「面接」について発表を行いました。

職業体験の当日までのつまずき

1. 決められた交通手段で移動できない
2. 面接(詳細は次のスライド)
3. 指示を聞いていない、聞きもらす
4. 失礼な態度をとってしまう
5. 日誌の書き方が分からない

図18 当日のつまずき

「面接」におけるつまずきについて、例えば、「設定した時間に来ない」ということがあげられます。教職員にとっては、面接に来ないことを「さぼった」または「逃げた」と思ってしまうこともあります。しかし、生徒の困り感に目を向けると見えてくることがあります。

「面接」でのつまずき
①面接の場所に行けない
②面接を受けない
③わざと落ちるように振る舞う

図 1 9 「面接」でのつまずき

「面接」に対するつまずきの理由
①場所や時間が口頭指示や全体への掲示ではわからず、面接の場所に行けないのかもしれない。
②受け方や答え方が分からないから行かない、という困り感があるのかもしれない。
③行きたいと思っていた職種に急に行きたくなくなったのかもしれない。

図 2 0 「面接」でのつまずきの理由

図 1 9 と図 2 0 のように、つまずきに対して子供が「なぜそんな行動を起こしてしまうのか」について考えることによって、教職員としては許せない行動であったとしても子供の困り感さえクリアすればできるようになるということがわかるようになります。それによって、図 2 1 のような掲示物によって見通しを持たせることや、事前に練習して経験させること、活動の意義や意味を伝えることなどの支援方法を実施することができるようになります。

考えられる対応
①全体への口頭指示・時間と場所を書いた紙の掲示のほか、個別に伝える。
②やり方が分からないことが原因であれば、一緒に練習するなど、本人に話を聞き、不安なことは一緒に解決する。
③なぜそのような行動をとったのかを聞き、真面目に取り組むことの大切さを伝える。

図 2 1 「面接」で考えられる対応

(5) 研究成果の発信

平成 3 0 年度より 2 年間続けてきた研究成果の発信については、作成した表 3 のような学校行事ごとの表を「知恵の泉」にアップロードし、広く活用していただくことができるようにしていきます。

5. おわりに

発達理解研究グループでは、平成 3 0 年度より 2 年間かけて「学校行事」について研究を進めてきました。これまでの各校での取組などの情報を集め、それを整理していきながら研究を進めてく中で、これまで試行錯誤しながら取組んできた吹田市の先生たちの「すべての子供が輝く場面を作りたい」という子供たちへの熱い想いを感じることができました。「すべての子供が安心して過ごすことができる学校行事を実施することができるようになること」を目的として進めてきた研究の結果完成した表が、このような先生たちに少しでも役立てば幸いです。

また、今回作成した表は、子供の困り感やつまずきに気が付くためのツールにもなります。是非、一度作成した表を見ていただき、日ごろ関わっている子供を思い出してみてください。きっと、これまで見えてこなかった子供の困り感やつまずきに気が付くかもしれません。

発達理解研究グループでは、平成14年より子供の特性理解を進めるための教材や資料などを作成してきました。本研究グループの研究成果によって、吹田市のすべての教職員が特別支援教育の視点を持ち、すべての子供が輝く学校づくりを進めていくことができるよう、今後も研究活動を進めてまいります。

是非、これまでの研究成果にも目を向けていただきたいと思います。

最後にはなりますが、2年間の研究活動において、多くのアドバイスをいただきましたスーパーバイザーの森田安徳先生、そして事例の提供やアンケートにご協力いただきました先生方に厚く感謝を申し上げます。

<参考>

- ・「気になる子どもへの支援のヒント ―相談事例集―」
平成21年3月 大阪府教育研究所連盟 教育相談部会編
- ・「こんなことはありませんか?～子どものサインを見逃さない～」
平成25年 吹田市立教育センター 子ども支援研究グループ
- ・「ASDのエピソード収集と対応する支援方法の検討」
平成28年 吹田市通級指導教室